

# 留学報告書

情報文化学科 2年 志賀響一郎

私がこのアメリカ留学に参加した理由はおそらく他の留学生とは違うかもしれませんが、英語学びたかった訳でもなく、またアメリカに興味があった訳でもなく、自分の可能性を広げるために決断して決めました。なぜアメリカにしたかという今このグローバル社会では英語が必ず必要になると高校のときに先生方から言われていたからです。この新潟国際情報大学に留学の制度があることは入学当初から知ってはいましたが自分の家計はあまり裕福ではないため関東の大学に行くことも諦めていた自分にとっては夢のまた夢の話でした。私は高校生活の三年間を精一杯生き抜き、自分を大きく成長させることができた実感したと同時に大学生になってからの生活にもの足りなさを感じていました。私は留学に行きたいことを親に相談し、留学の費用の件などでいくらか対立しましたが思い返せばこのアメリカ留学は英語を学ぶだけでなく、一言では絶対に表わすことのできない貴重な体験ばかりでしたが、たくさんの喜怒哀楽に囲まれて生活し、たくさんの苦勞がありました。

まず事前研修なのですが私はパスポートもビザもクレジットカードも持ってなく、約2か月半の間に海外保険の加入や健康診断書の提出、東京のアメリカ大使館まで面接などアメリカに行くまでかなり苦勞した記憶があります。アメリカは入国がかなり厳しいことは知っていて、もちろん親身になって教えてくれた担当の方がいましたがそうではない方もいて、留学生の友に救われました。アルバイトもしながらそうこうしている間にあっという間に時間は過ぎ英語を勉強もまともにできないまま留学当日を迎えました。

留学当日、海外に行くのは初めてでしたが不安はなく、楽しみでいっぱいでした。東京まで新幹線に乗り、成田空港までバス、ミネアポリスまで飛行機に乗り隣町のカンザシティまで飛行機を乗り継ぎ、そしてノースウェストまでバスという長時間移動で1日かかったのに現地に着いたら日付が変わっていきそこ初めてアメリカに来たと深く実感しました。そこから寮の説明や、学生証作成、個人用ラップトップのログイン、採血、学校敷地内を覚えるレクリエーションや授業のクラス分けのテストなど盛りだくさんで時差ボケもあり暇さえあれば疲れで寝ていました。これらの事がすべて英語なのでほとんど理解できないままなんとか済ませて毎日英語を聞いていればすぐに慣れると思っていたのですが、「Can I Kiss You?」というアメリカのデートの習慣に対する講演会を見に行ったときに激しく英語の壁に当たりました。全く理解できませんでした。これが当日から一周間の流れです。

勉強面では、英語は全然得意ではないため英語に対する自分の学習レベルの危機感を持

ち続けながら、クラス分けで B クラスになり初めは中学校の様な授業だったので少しだるい気持ちも抑えながらはじめからやり直すつもりで授業にのぞみました。しかし授業のレベルも少しづつ上がり、先生の質問が理解できなかつたり、わからない文法や単語が出てきたりして英語は本当に難しく挑戦しがいのあるものだと思います。いつしかこの留学の自分への可能性を広げることが英語を覚えることになり、英語を学びたいと自然に思うようになりました。しかし、私は留学の途中からリスニングとスピーキングの自分のできなさに諦めを感じ、TOEIC に向けた勉強を始め、授業などは楽しむことに専念しました。授業は先生たちが冗談を言ったりたまにゲームをしたりなど楽しかったのですが週に一回のスピーチが大嫌いでした。新聞を読む習慣をつけ、わからない単語は単語帳に書いたり、図書館で DVD を見たりと TOEIC へ向けた道へは進んで行ったはずだったのですが結果は散々でした。リスニングが完全に足を引っ張っていたので、あのとき諦めず食欲にリスニングにもスピーキングにも関わっていたらもう少しいい点が取れたのではないかと思うと後悔しますが英語はやはりとても興味深く面白いと思います。中でも週二回ある **Conversation Partner** の授業は私にとって思い出があります。私たちのパートナーの **Grant** は毎回新しい議題を考えてきてくれたり、私たちがしっかりと聞けなかった質問をゆっくりと言い直してくれたり、絵を書いて説明してくれたりと熱心に教えてくれる反面、私たちが質問の答えを一生懸命考えている間にこっそりスーパーマリオの動画を見ていたらしく BGM を漏らしてしまうなどお茶目な部分もあり私にとってこの時間はとても有意義な時間でした。



生活面では、初めはとにかく右も左もわからなく、ルームメイトも日本人だったので同

じ大学のみんなと一緒に行動していました。学校側も私たちに学校の様々なイベントに参加させアメリカ人の友達を作れるようにしてくれていて「International Coffee Hour」「Ice Cream Social」「Newman Center」などアメリカ人と接触できるイベントに参加してはいたのですが、まともに話をすることもできないためその時だけの会話の相手までには行けずもう一步踏み出すことができませんでした。そんな私にとって大きな転機が2回ありました。1つは同じESLの外国人留学生たちでした。ESLのみんなはとにかくいい人ばかりで何も気負うことなく英語を話せない自分でも早く仲良くなれた気がします。特に中国人のNeoが来てから私はNeoと一緒にいる時間が増え英語を使う場面も増えました。2つめはConversation Partnerの授業のときにふと好きなゲームの話になり任天堂の大乱闘スマッシュブラザーズというゲームがアメリカでも流行っていることを知り、Grantを通じてその友だちのところへ参加し、そこでアメリカ人が使っていたキャラクターたちをボコボコにしたら次とは言わず何回も誘ってもらえるようになり、そこでNick, Joe, Sam, Brett, Tomたちと仲良くなれました。彼らは暇さえあれば誘ってくれてゲームだけではなく、時に朝食や夕食など食事を共にし、私たちの住んでいたFranken Hallでピンポンをしました。私は中学の頃卓球部に所属していたので、ピンポンでもボコボコにすると何回もリベンジされ宿題もせずずっと遊んでいたこともありました。アメリカで出会えた彼らとは3か月くらいしか一緒にいれませんでした。私は彼らに出会えたことを誇りに思います。それほど自分にとって大切だと思える人たちに出会えたこともまたいい経験だったのではないのかと思います。学校のだいたいのイベントには同じ大学の友達と参加して、暇があれば浅間と西海土の部屋に行き記憶にはないですけど大事な話や主にくだらない話を延々としていたのもいい思い出だと思います。学校の時間と友だちという時間を除けばその他は一人である時間が多かったです。学校はトレーニングルームが使い放題だったのでとにかくほぼ毎日通い、図書館に行き宿題をして勉強するか映画を見るかの生活でしたが新聞は読み続けていました。文武両道とは言えませんが、生活面はかなり充実させることができました。

